

# トピック

## 計測のシステム化を目ざす

### 技術講演と新製品発表展 東京・大阪で開催

(株)共和電業

隔年開催されている共和電業の単独展が去る4月上旬から中旬に東京・大阪で開催され、両会場とも前回の2倍の来場者があり大盛況を博した。

今回は計測のシステム化を目ざす技術講演と新製品発表展と題して大阪では4月5日、6日大阪駅前の新阪急ビルで、東京では4月18日、19日有楽町駅前東京交通会館で開催され、主体とした技術講演では7テーマの講演があった。テーマは「効果的なひずみゲージの取扱法」、「土木計測における最近のセンサと測定機器」、「データロガーの物理量計測への導入」、「産業検査機器へのひずみゲージ式センサの応用」、「ひずみゲージとその関連機器の将来展望」、「計測機器とパソコンの利用技術」、「計測器の最新技術の動向」であり、各テーマとも多数の方にご高聴いただいたが、特に「計測機器とパソコンの利用技術」については、大好評をいただき、時間を短縮し2回にわけて実施せざるを得ないほどでした。(同講演内容は本号報告欄に掲載)

新製品として20点以上の製品を発表し、主なものはELディスプレイとメニュー方式による対話形式をとり入れた上に、帯域は従来の2倍(DC~40KHz)と広帯域のデータコーダRTP-650A。1000点の測定をわずか1秒で行う高速型データロガー(UCAM-100A)、動ひずみ測定器では耐圧AC1500VのDPM-600Bシリーズ。手のひらに乗るような超小型シグナルコンディショナCDV-400。現場で得たデータを解析処理し、その結果だけをメモリするヒストグラムレコーダ(RHS-300)。4~20mAの出力をもつ増幅器付圧力変換器(PAA型)、従来の2倍の応答性のある加速度変換器(AS-HA, HB)、一つの変換器でひずみなどの物理量と温度のはかれる測温機能付土木変換器など。

実物展示品は、計測のシステム化に対応するものとしてパーソナルコンピュータを軸とした計測システム(構造物静載荷試験、構造物水平載荷試験、地震による構造物振動試験など)、実物タンクを使用した計重システム、鉄道車両の車輪フラット検出装置などである。

